

研究データ利活用協議会 活動紹介

2025年12月12日 研究データ利活用協議会事務局

- **RDUFについて**
- 小委員会について
- 部会について
- 入会のご案内

研究データ利活用協議会(RDUF)について -設立の背景-

日本のDOI登録機関であるジャパンリンクセンターが2014年10月から2015年10月までの約一年間実施した「研究データへのDOI登録実験プロジェクト」において、**分野を横断した実務レベルの研究データ担当者が集うコミュニティが醸成。**

このコミュニティを活用し、**オープンサイエンスの実現に向けて個々の組織や分野を超えた情報共有や議論を促進する**ため、JaLC特別部会として2016年6月3日に「研究データ利活用協議会(RDUF)」が設立。来年（2026年）で設立10周年を迎える。

組織や分野を超えた情報共有や、シンポジウム等のイベント開催、小委員会・部会活動を通して、研究データの利活用に関する課題に取り組んでいる。

RDUFについて -RDUFの会員制度-

■ 個人会員：208名（2025年11月末時点）

研究者（データ提供者、データ利用者）大学・研究機関のデータリポジトリ関係者、図書館員など幅広い分野から参加

■ 機関会員：8機関

RDUFの活動の趣旨に賛同し、運営や企画に貢献する機関。



■ 会員の主な活動

- ・ 小委員会・部会への参加（有志）
- ・ 会員専用メーリングリストでの情報共有
- ・ 企画委員の信任投票
- ・ イベントへの参加（発表登壇など）

RDUFについて -企画委員会-

RDUFの運営を効率的かつ円滑に推進するため設置。企画委員会を開催し、年度ごとの活動方針や活動総括の策定、機関会員入会の審査などを行う。

■ 2025年度 企画委員（13名）

南山 泰之（委員長） / 東京大学

熊崎 由衣（副委員長） / 千葉大学附属図書館

池内 有為 / 文教大学

江森 正憲 / 科学技術振興機構

小林 芳幸 / 国立国会図書館

高津 佳宏 / 海洋研究開発機構

田辺 浩介 / 物質・材料研究機構

長岡 千香子 / 国立情報学研究所

早川 美彩 / 日本原子力研究開発機構

林 和弘 / 文部科学省 科学技術・学術政策研究所

古川 雅子 / 国立情報学研究所

村山 泰啓 / 情報通信研究機構

八塚 茂

RDUFについて -2025年度の活動方針-

■ 2025年の活動方針

1. 様々な知見やユースケースを共有し、関係者間のネットワークを構築・強化するための場をつくる。
2. 参加機関の現場の抱える関心事などについて検討し、その結果を「研究データ利活用協議会」の成果物（ガイドライン、ノウハウ集、事例集など）としてまとめることを目指す。
3. 普及・広報活動を強化し、「研究データ利活用協議会」のプレゼンス向上を図る。

- RDUFについて
- 小委員会について
- 部会について
- 入会のご案内

小委員会について

会員が抱える研究データ管理に関する様々な課題について、共通のテーマで集まり議論を深め、その成果を指針やガイドラインとしてまとめて公開することを目的とした「小委員会」を設置。

- ※ 活動期間は1年間（延長、再設置可能）
- ※ 参加にはRDUF入会が必要

■ 過去の小委員会

- ・データ管理計画(2017.9-2019.3)
- ・研究データのライセンス検討プロジェクト(2017.10-2019.3)
- ・リサーチデータサイテーション(2018.12-2020.6)
- ・研究データライセンス(2019.7-2020.12)
- ・ジャパン・データリポジトリ・ネットワーク(2020.1-2020.12)
- ・人文学・社会科学のデータ共有における課題検討(2021.10-2023.3)
- ・研究資料・実験機器へのPID付与検討小委員会(2022.2-2023.9)
- ・研究データへのDOI登録促進(2021.11-2024.6)

■ 主な活動内容

- ・ミーティング、勉強会、セミナーの開催
- ・セミナーや調査等で得られた知見に基づく調査報告書の作成
- ・RDUF 総会・公開シンポジウム、JOSS などオープンサイエンス関連イベントへの参加

小委員会について

■ 現在活動中の小委員会

今年、新たに2つの小委員会が始動しました！

政府メタデータ共通項目小委員会

<活動概要>

2021年4月に示された「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」では、公的資金による研究データの産学官での幅広い利活用を図るため、15のメタデータ共通項目が示された。

本小委員会では、主として研究者の視点からこれらの項目をレビューし、対応する項目の精緻化を検討する。さらに、国際標準に準拠したメタデータの在り方についても議論し、政策提言に繋げることを目指す。

PIDユースケース検討小委員会

<活動概要>

昨今、研究成果物や研究者、研究費、研究機関などに永続識別子（PID）を付与し、国際協調のもとデータを整備して分析に役立てる試みが進んでいる。

本小委員会では、PIDを活用した具体的なユースケースづくりを通じて、多様なPIDの使用方法とメリットを整理し、国内におけるPIDのさらなる普及を目指す。

小委員会について

■ 新たな小委員会の設置

- ・ 小委員会において、自ら主体的に検討をリードする意志を持つRDUF会員であれば提案可能。
※実際の活動を踏まえ、関係するコミュニティのメンバーをコアメンバーとして組織する、あるいはその参加を想定したうえで応募することを推奨。
- ・ 小委員会募集要項の内容を踏まえ、規定の提案書様式に則って応募
(参考) RDUF公式サイト：小委員会ページ
<https://japanlinkcenter.org/rduf/subcommittee/index.html>

<提案書の主な項目>
テーマ、目的、成果物、
成果のインパクト、活動計画、初期委員

■ 成果物

- ・ 研究データへのDOI登録ガイドライン日本語版、英語版
- ・ PIDINST日本語訳ドキュメント
- ・ 「人文学・社会科学のデータ共有における課題検討」データ共有の取り組みに関する事例集
- ・ 研究データの公開・利用条件指定ガイドライン
- ・ 研究データリポジトリ整備・運用ガイドライン (JDARN案) など・・・

これまでの成果物は公式サイトで公開しています！

- (参考) RDUF公式サイト：成果物ページ
<https://japanlinkcenter.org/rduf/deliverable/index.html>

- RDUFについて
- 小委員会について
- 部会について
- 入会のご案内

部会について

小委員会活動等によって得られた知見の継承と展開を、長期的・継続的に行うことを目的とし、活動期限に縛られない枠組みとして設置。

小委員会成果物の更新や利活用促進、継続的な議論、コミュニティの拡大等の活動を行う。

■ 現在活動中の部会

データ共有・公開制度検討部会

<活動概要>

本部会は、研究データライセンス小委員会の活動を継承し展開することを目的として、研究データの公開・利用条件指定ガイドラインの広報・更新などを実施。

また、研究データ利活用に関する法的・制度的課題の検討をもとに、学会やセミナーで成果発表や知見の共有を行うほか、企画委員会による了承のもと、個別のアドバイザー的な役割も担う。

ジャパン・データ・リポジトリ・ネットワーク推進部会 (JDARN)

<活動概要>

本部会は、ジャパン・データ・リポジトリ・ネットワーク小委員会の活動を継承・展開することを目的として、主に国内のデータリポジトリの信頼性を、国際的に期待されている水準に高めるための活動を行う。

また、多様化するデータリポジトリへの要求に対応し、共通の課題を議論する場を設け、データリポジトリ関係者のコミュニティ形成を目指す。

- RDUFについて
- 小委員会について
- 部会について
- 入会のご案内

入会のご案内

研究データの利活用に興味を持ち、協議会の趣旨に賛同する方はどなたでもご参加可能です。
広く、皆様のご参加をお待ちしております！

<主な活動>

①研究会・シンポジウム

研究データの利活用について、様々な立場の方が集まり、意見交換や議論を行う。
皆様が抱える、研究データ利活用に関する課題の解決に生かすことができる。

②小委員会・部会

特定の活動テーマを定め、より深い議論・意見交換を行う。
また、議論の結果を提言や指針などの「成果物」としてまとめ、RDUF公式WEBサイトにて公開する。

③メーリングリスト

専用のメーリングリストを通じて、研究データの利活用に関する情報共有ができる。



オープンサイエンスにおいても重要視される、
データ共有・利活用のコミュニティに参加しませんか？

(参考) RDUFサイト：入会のご案内ページ

<https://japanlinkcenter.org/rduf/joinus/index.html>